



平成26年8月27日  
海上保安庁

## 西之島の火山活動の状況（8月26日観測）

8月26日、羽田航空基地所属航空機（MA722 みずなぎ）により、西之島の火山活動の観測を実施した。

### 1. 噴火の状況

これまで確認された火口の他に、北側火口の東側に新たな火口（東側火口）が認められた。

北側火口では、火口内に溶岩の湧き出し（溶岩マウンド）が認められ、約3、4分毎に溶岩片を伴った白色噴煙の噴出を繰り返していた。溶岩マウンドはほぼ楕円形で、大きさは長径約90m、短径約60mである。

東側火口では、白色の噴煙を連続的に噴出していた。熱画像からは東側火口付近から東側海岸まで溶岩流の流出が確認できた。

また、北側火口と南側火口の間火口では、活発ではないが、青白色の火山性ガスとみられる噴煙を放出していた。

前回7月23日の観測で確認された南側火口、北東火口の2カ所では活動が認められなかった。

新たに形成された陸地の東岸で、溶岩流の海への流出に伴う水蒸気を上げていることを確認した。

西之島の火山活動は引き続き活発で、今後も噴火による影響が及ぶおそれがあることから、西之島及び周辺海域（島の中心から半径6kmの範囲）においては、付近航行船舶へ引き続き航行警報により警戒を呼びかけている。

## 2. 新たに形成された陸地の状況

流出した溶岩によって新たに形成された陸地は、7月23日と比較して北東方向に拡大していた。また、西岸から南岸にかけて波浪による浸食と思われる海岸線の後退箇所が認められた。

なお、同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上健治教授からは、「北側火口内に溶岩マウンドの形成が認められる。今後、この溶岩マウンドが更に成長して火道の栓になり、爆発的噴火を引き起こす可能性があるので注視する必要がある。北東方向へ溶岩流が伸びているが、東側火口からの供給だけでなく、北側火口からも溶岩トンネルを通過して供給されているものと考えられる。」とのコメントが得られた。

※8月26日時点での形状（暫定値）

- ・東西：約 1,550 m（7月23日時点 東西：約 1,550 m）
- ・南北：約 1,250 m（7月23日時点 南北：約 1,050 m）
- ・面積：約 1.21 平方 km、東京ドームの約 26 倍

（7月23日時点 約 1.08 平方 km、東京ドームの約 23 倍）

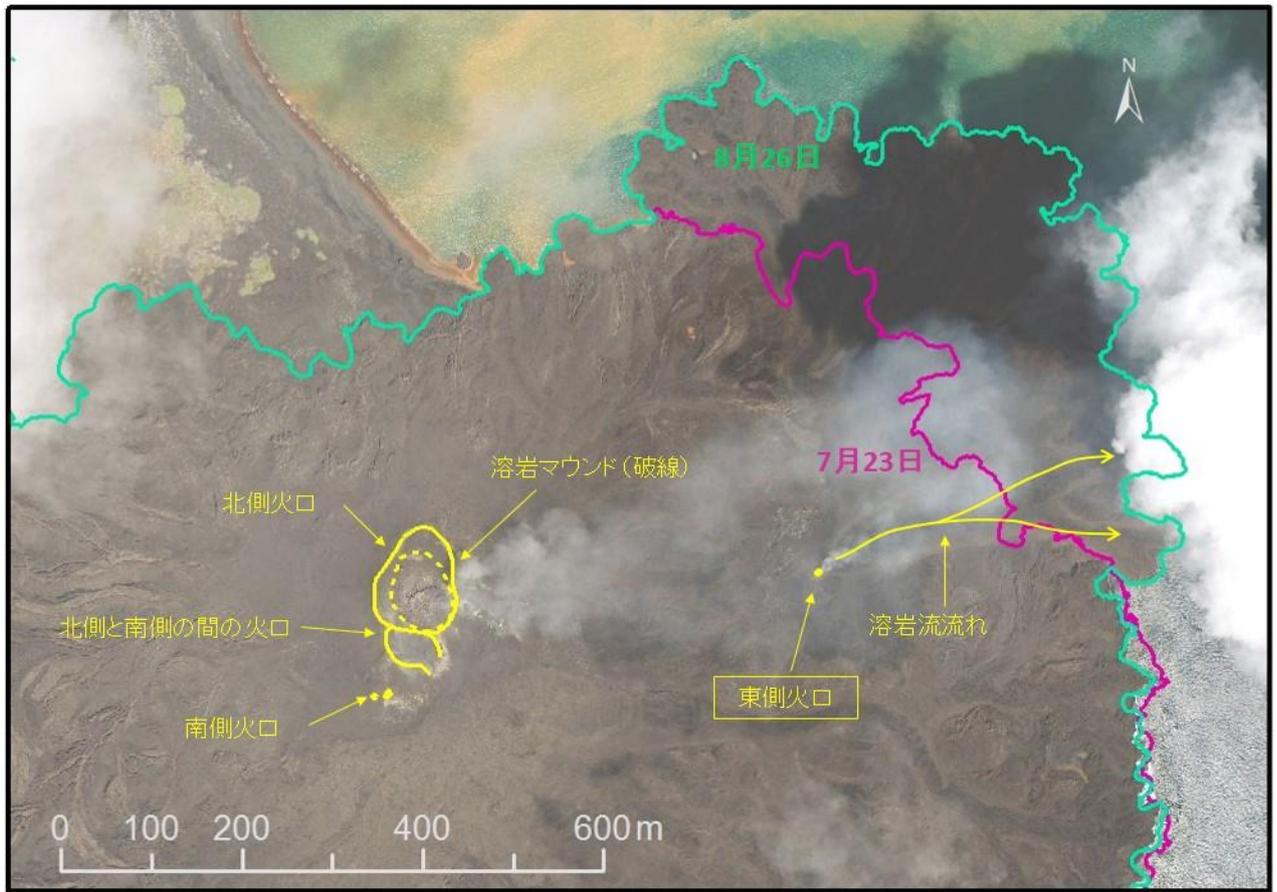


図1 今回確認された火口の位置を示す。(8月26日撮影)



図2 3カ所の火口から噴煙が噴出している。(8月26日撮影)



北側火口内の  
溶岩マウンド

北側火口と  
南側火口の  
間の火口

図3 北側火口内の溶岩マウンド（8月26日撮影）

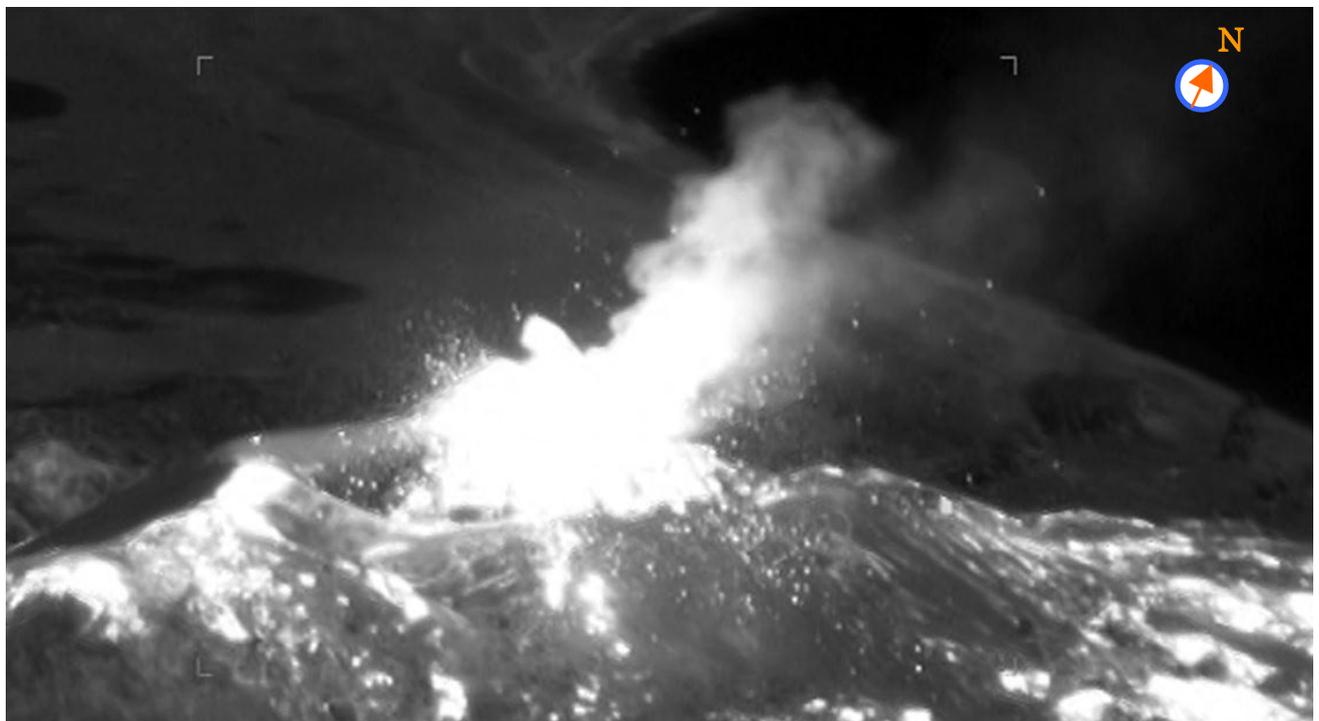


図4 北側火口では溶岩片の噴出が認められる。（8月26日撮影）  
（熱赤外線画像：白色ほど高温であることを示す。）

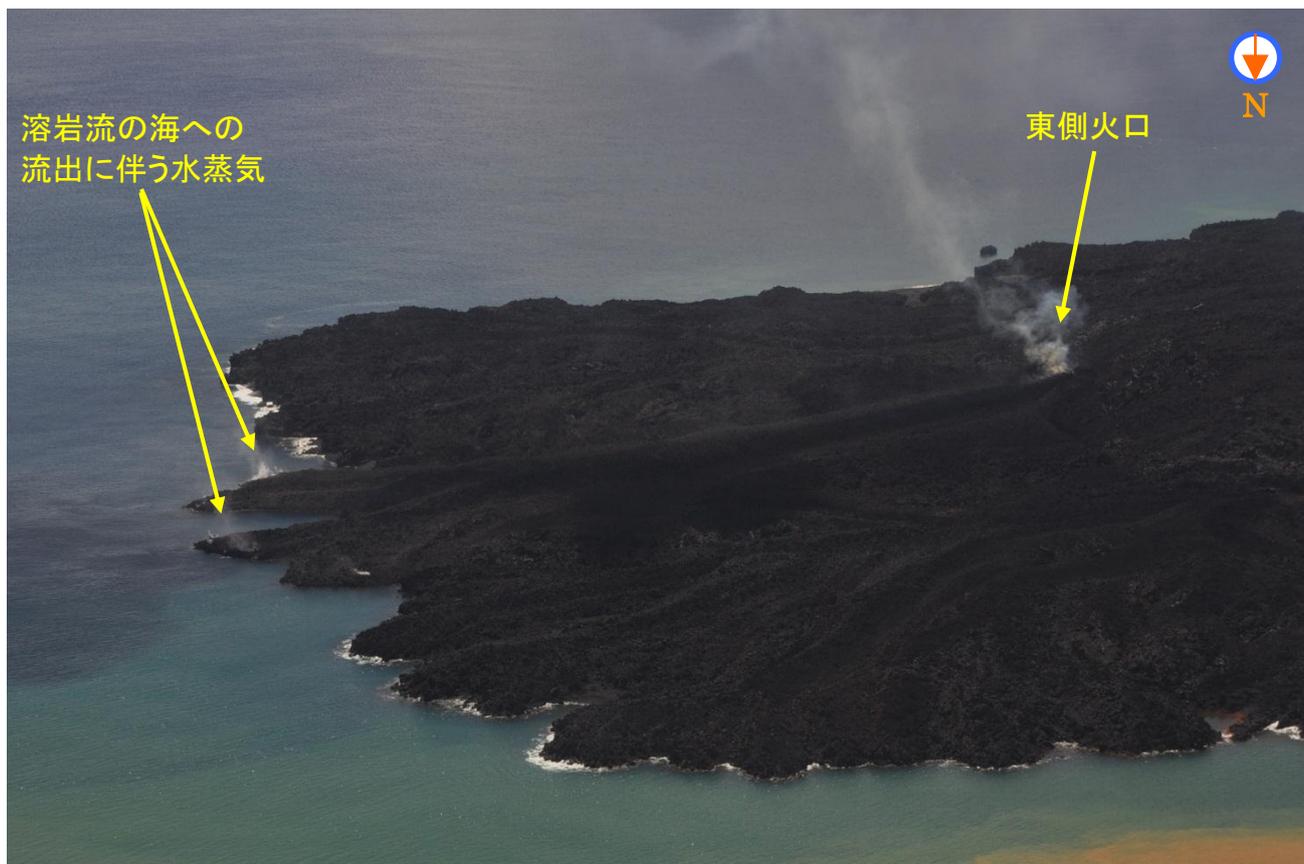


図5 東側火口から白色の噴煙を噴出している。(8月26日撮影)

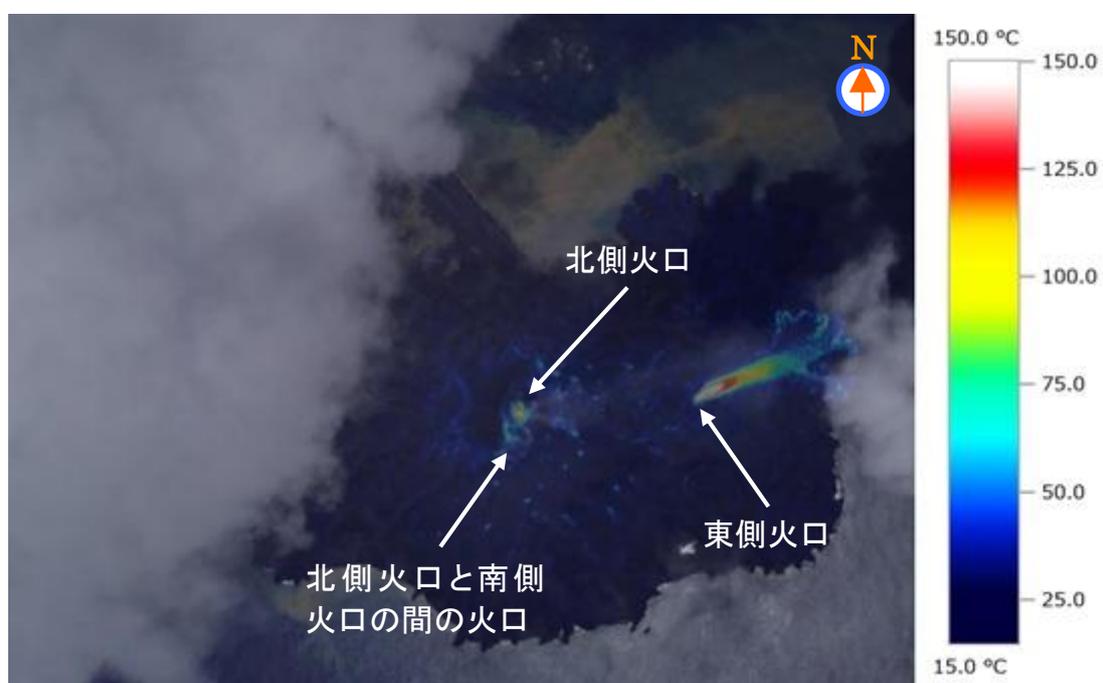


図6 熱画像の解析結果 (8月26日撮影)  
溶岩流が東側火口付近から北東岸方向に流れているのが確認できる。

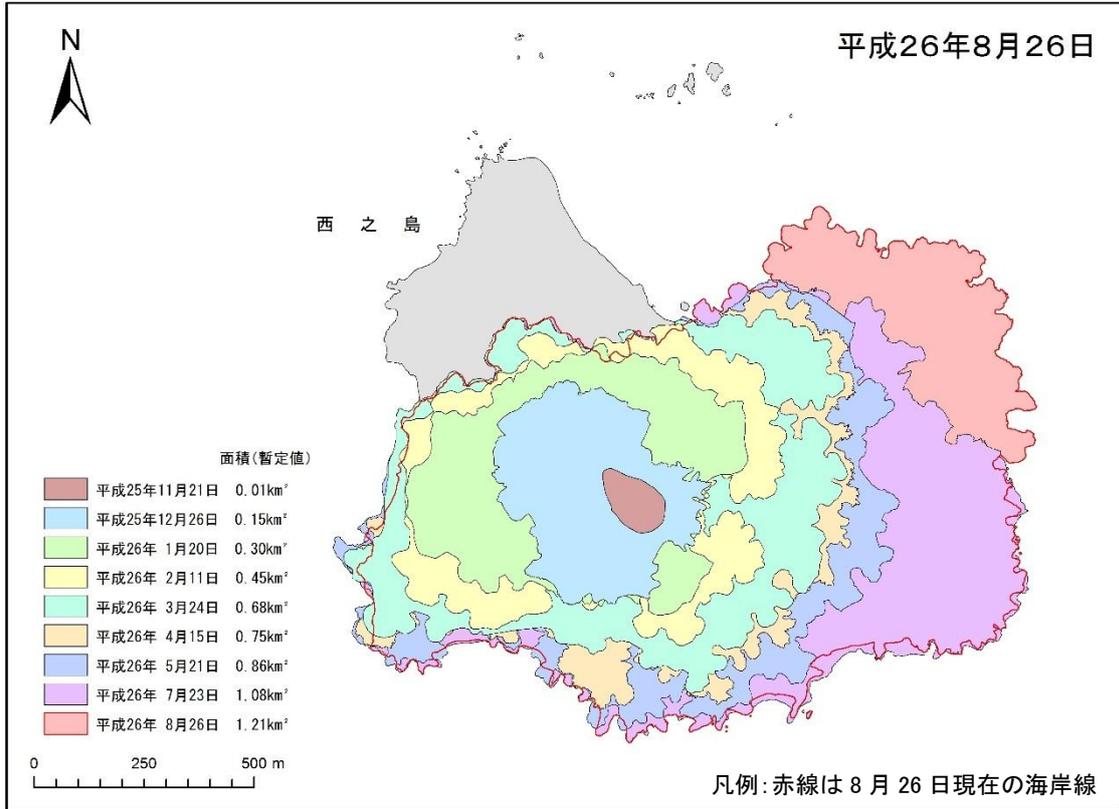


図7 新たに形成された陸地部分の形状変化の様子